

## 受賞者の業績

北島 敏子氏 44歳(岩手県・保健婦)



郷里の乳幼児死亡率の高いことに胸をいため、7年間の看護婦勤務から保健婦に転身、20余年間、母子保健一筋に活動。特に昭和39年悲願の乳幼児死亡ゼロを達成。その後七回も乳幼児死亡ゼロを記録した業績は、高く評価されている。

野本 三鈴氏 49歳(埼玉県・主婦)



家事と母子愛育会の活動を立派に両立させ、特に、お母さんとなる新しい妊婦さんを市のすみずみまで訪問して、相談相手となって21年余、ボランティア活動を続けている。昭和49年からは、むし歯予防運動を展開、乳幼児のむし歯率低下に取り組んでいる。

青木 英子氏 49歳(新潟県・助産婦)



昭和26年2月西保健所に入所以来、28年余の間、育児指導を精力的に推進するほか、地域助産婦の育成に情熱を注ぎ、将来は小児病院の設立をはかりたい等、積極的かつ理論的に総合的母子保健事業を展開している。

水井 久子氏 41歳(富山県・保健婦)



市内に小児科医ゼロという医療状況から、乳幼児死亡率が全国平均よりはるかに高いことを憂慮し、20余年間、地域に応じたきめ細かい母子保健活動を体系的に企画推進して著しい成果をあげている。

梶浦一郎氏 48歳(大阪府・医師)



大阪大学医学部心身障害児研究会当時から、心身障害児の早期発見、早期療育を目指して、わが国では、はじめてホバース法を導入。乳児健診の中心的役割を果たしてきた。またホバース法による指導者の再教育、更に近年増加してきた地域の通園施設に対しての技術指導を行うなど、心身障害児の早期療育体制を推進。

森 三枝子氏 43歳(和歌山県・主婦)



母子保健推進員で、9年間、地域の母子保健に活躍している。主婦業、農業をこなしつつ、若い母親の相談のため、バイクの免許までとって巡回指導に専らしている。保健所で開催される妊婦健診・母親教室の参加を呼びかけ、現在ほぼ100%の出席率をあげている。

穴戸 宏子氏 36歳(鳥取県・医師)



鳥取県智頭病院に小児科医として赴任してから今日まで8年間、特に零歳児の健康相談、先天性疾患の早期発見、早期治療等に関して、きめ細かい相談・指導を積極的に推進。過去頻繁にあった法定伝染病は、昭和50年度よりゼロとなる。また幼児のしつけ・衛生教育にも力を入れ、歯牙疾患が減少。着実に成果をあげている。

石尾 玲子氏 47歳(岡山県・保健婦)



岡山県は母子指標が全国第1位である。昭和26年以來28年間、母子保健一途に活躍して来た。地区の愛育会づくりからはじまり、愛育大学設置まで、果たした役割はまことに大きい。

特に、育児の理解を深めるため「嫁としゅうとめの会」をつくり好評を得ている。

上田悠美子氏 47歳(山口県・保健婦)



母子愛育会の育成、母親・新婚・育児学級の確立、健康づくり推進協議会の発足等手がけた仕事は数多く、全妊婦にミルクを支給、婦人の健康づくり、特に妊娠婦の貧血の減少に力を注ぎ、すばらしい成果をあげている。

特に妊娠婦の貧血の減少に力を注ぎ、すばらしい成果をあげている。

石川ヒサ子氏 44歳(香川県・保健婦)



農村地帯の典型的な多産多死の現状打破に取り組んで21年間余。三野町母子愛育会の創設、「よい子を生み育てる運動」の実施等、地域に密着した母子保健を推進、46年、52年には乳児死亡率ゼロを達成。母性の心の保健を目差し、常に母子とともに歩む姿勢を崩さず献身的に活躍している。

心の保健を目差し、常に母子とともに歩む姿勢を崩さず献身的に活躍している。

門川 長子氏 48歳(宮崎県・保健婦)



保健婦として20余年。多くの僻地を包含する管内、各種検診の立ちおくれ、母子保健指導体制の不備等、早期に解決しなければならぬ仕事は山積していた。この環境にあつて、昼夜をわかつたず、山越え谷越えの献身的、親身も及ばない保健指導

は、母親はもちろん全家族から厚い信頼をよせられている。特に、青年層の婚前教育の成果には著しいものがある。

仲里 幸子氏 45歳(沖縄県・保健婦)



本土復帰するまで、母子保健行政も、米軍の統制下であり、全く野放しの状態であった。この現状を憂い、琉球政府厚生局公衆衛生課に配属以來、母子保健行政に積極的に取り組み、母子健康増進対策、母子保健指導員の養成、母子健康センターの

設置等、幅広く活躍。特に母子保健施設等の少ない離島の保健指導、更には、青年学級等に母子保健の講座を設ける等着実に成果をあげている。

佐藤 敏雄氏 46歳(札幌市・獣医師)



母と子の健康な暮らしを願い、母乳中のPCBに関する調査および検査体制の確立、感染症の疫学調査、先天性代謝異常症およびクレチン症、マス・スクリーニング体制の確立等の専門学の研究活動を地道に続け、母子保健の向上に多大の貢献をして

いる。まさに母子保健の縁の下での力持ち的存在である。大学の講師も兼ね、後進の育成にも情熱を注ぐ学究の士である。

小川 宙子氏 45歳(大阪市・主婦)



昭和35年東成母子会に入会して以來、母子保健活動に入って18年余。現在本部役員として、会の育成・発展に多大の貢献をし、母子保健衛生の向上発展に尽した業績はまことにすばらしい。

42年母子保健貢献者として大阪府知事表彰をはじめとして、数々の表彰を受けている。

柴田タカ子氏 46歳(福岡市・保健婦)



博多保健所を振り出しに、この道に入って実に24年余の大ベテラン。この間、特に乳児健診を市民の間に定着、母子栄養強化事業の推進、母子保健推進員の指導等意欲的な活動を行っている。また巡回車による巡回健康相談を実施、企画・立案を

行うとともに、自ら相談業務に従事。電算機の導入により、一貫した乳幼児健診の健康管理体制を確立した。